

小学六年
適性検査A
 解答と解説

| 【例】 | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|
| 的 | が | る | を | 手 | |
| で | 気 | 。 | は | と | 敬 |
| 敬 | 持 | ま | っ | 自 | 語 |
| 語 | ち | た | き | 分 | を |
| を | よ | 、 | り | の | 使 |
| 用 | く | 文 | さ | 間 | う |
| い | 接 | 章 | せ | に | 目 |
| る | し | B | る | 距 | 的 |
| と | 、 | で | 目 | 離 | に |
| 述 | 社 | は | 的 | が | つ |
| べ | 会 | 、 | で | あ | い |
| て | を | 社 | 用 | る | て |
| い | 住 | 会 | い | 場 | 、 |
| る | み | の | る | 合 | 文 |
| 。 | や | 中 | と | に | 章 |
| | す | で | 書 | 、 | A |
| | く | 人 | か | そ | で |
| | す | と | れ | の | は |
| | る | 人 | て | 距 | 、 |
| | 目 | と | い | 離 | 相 |

100 20

| 【問二】 【例】 | | | |
|---------------|---|---|---|
| す | 離 | い | 講 |
| 場 | を | て | 演 |
| 合 | 縮 | 聴 | 中 |
| 。 | め | い | 、 |
| | た | て | 筆 |
| | い | い | 者 |
| | と | る | を |
| | い | 若 | 偉 |
| | う | い | い |
| | 気 | 人 | 先 |
| ⁷⁰ | 配 | に | 生 |
| | り | 対 | だ |
| | の | し | と |
| | 目 | て | 思 |
| | 的 | 、 | っ |
| | を | 精 | て |
| | も | 神 | 距 |
| | っ | 的 | 離 |
| | て | な | を |
| | 話 | 距 | お |

60 20

| 【問一】 【例】 | | |
|---------------|---|---|
| 時 | 下 | 親 |
| | の | し |
| | 人 | い |
| | 間 | 人 |
| | に | 間 |
| ⁴⁵ | も | と |
| に使う場合がある。 | の | 会 |
| | を | 話 |
| | 言 | す |
| | う | る |
| | 時 | 時 |
| | 、 | や |
| | ひ | 、 |
| | と | 目 |
| | り | 上 |
| | ご | の |
| | と | 人 |
| | を | 間 |
| | 言 | が |
| | う | 目 |

40 20

(問三)

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 見 | べ | 使 | り | 持 | 自 | 間 | ら | な | れ | っ | | い | ち | て | |
| て | き | い | の | ち | 分 | 関 | ず | い | た | た | 敬 | た | を | く | 私 |
| 判 | か | た | 気 | を | が | 係 | 、 | こ | り | り | 語 | い | 持 | れ | に |
| 断 | そ | い | 持 | 表 | 伝 | が | 相 | と | す | 、 | を | と | っ | る | 向 |
| す | う | と | ち | 現 | え | こ | 手 | で | る | 自 | 使 | 思 | て | 人 | け |
| る | で | 思 | を | で | た | わ | に | 、 | 場 | 分 | わ | う | い | に | て |
| こ | な | う | 持 | き | い | れ | い | 相 | 合 | の | な | 。 | る | 対 | 思 |
| と | い | 。 | っ | る | 内 | て | や | 手 | も | 伝 | い | | こ | し | い |
| が | か | そ | て | 敬 | 容 | し | な | を | あ | え | 方 | | と | て | や |
| 大 | を | の | 話 | 語 | と | ま | 思 | 敬 | る | た | が | | を | 、 | り |
| 切 | 、 | た | し | を | と | う | い | う | 。 | い | 、 | | 伝 | 私 | の |
| に | そ | め | て | 、 | も | こ | を | 気 | し | こ | 交 | | え | も | 気 |
| な | の | に | く | 私 | に | と | さ | 持 | か | と | 流 | | る | そ | 持 |
| る | 場 | は | れ | に | 、 | が | せ | ち | し | を | が | | た | の | ち |
| と | の | 、 | る | 向 | 相 | あ | て | が | 、 | 容 | 深 | | め | 人 | を |
| 思 | 状 | 敬 | 人 | け | 手 | る | し | 十 | 敬 | 易 | ま | | に | に | 持 |
| う | 況 | 語 | に | て | を | 。 | ま | 分 | 語 | に | り | | 敬 | 敬 | っ |
| 。 | を | を | 対 | 思 | 敬 | だ | い | に | を | 伝 | や | | 語 | う | て |
| | よ | 使 | し | い | う | か | 、 | 伝 | 使 | え | す | | を | 気 | 話 |
| | く | う | て | や | 気 | ら、 | 人 | わ | わ | ら | か | | 使 | 持 | し |

440

400

300

200

(配点)

{ 問一 20点
 問二 30点
 問三 50点 } 計100点

【解説】

問一 B1 情報を獲得する 比較 関係づけ 具体・抽象

「タメ口」を使う場合について、**文章A**では三つの例を挙げています。そのうち一つ目と二つ目の例は、第十九段落に書かれている「親しい人間との会話」と「目上の人間が目下の人間にものを言う時」です。そして、三つ目の例は第二十二段落に書かれている「ひとりごと」を言う時です。これら三つのこととを「に使う場合がある。」に続くようにまとめます。一つ目と二つ目の例については同じ段落に、「タメ口には、敬語がありません。敬語がなくてもいいのは…」と書かれている点に気をつけましょう。「敬語がなくていい」タメ口を使う」というように置き換えて考えます。

※以下のポイントを中心に見ます。

- ① 「タメ口」を使う場合について **文章A** の表現を使って書かれているか
- ② ①の内容が過不足なく書かれているか
- ③ 表記や表現が正しいか

問二 B2 情報を獲得する 理由 比較 置き換え 具体・抽象

文章Bの筆者が、丁寧語をふくむ敬語を使わない場合について例を挙げて述べているのは第二十段落から第二十四段落です。その中で、第二十四段落に書かれている「偉い先生のお話しだと思って精神的に遠くのほうで聴いている若い人に、近づいて行きたくて、つい彼らと対等の言葉を使うのである」という部分を利用して説明するとよいでしょう。ただし、問題に「わかりやすく説明しなさい」と書かれているので、この部分をそ

のまま書くのではなく、「精神的に遠くのほうで聴いている若い人に、近づいて行きたくて」という部分を具体的な表現に改める必要があります。

※以下のポイントを中心に見ます。

- ① 筆者が丁寧語をふくむ敬語を使わない場合について、わかりやすく説明されているか
- ② ①の内容が過不足なく書かれているか
- ③ 表記や表現が正しいか

問三 C2 情報を獲得する 理由 比較 具体・抽象 推論

文章Aと**文章B**に書かれたことをふまえながら、どのような立場の人にとどのような目的で敬語を使いたいか、ということについてあなたの考えを述べる問題です。

第一段落では、**文章A**と**文章B**それぞれに書かれた、敬語を使う目的についてまとめます。

文章Aの本文の第二十一段落に「『：相手と自分とのあいだには、とても距離がある』という状況だから、その『距離』をはつきりさせるためには、『丁寧の敬語』を使えばいいのです」と書かれているので、この部分を利用するとよいでしょう。

文章Bの第十七段落に「『：社会の中で、人と人が気持ちよく接するためにあるのが敬語であり、敬語は我々の社会を住みやすくしてくれるものなのだ』と書かれています。この部分をまとめるとよいでしょう。

第二段落では、どのような立場の人にとどのような目的で敬語を使いたいかを、第一段落をふまえて書きます。たとえば、友達のお父さんに初めて会った時に、尊敬の気持ちをこめて敬語を使うというのもよいかもしれません。自分なりにシチュエー

シヨン(状況)を想像して書いてみましょう。

第三段落では、第二段落で述べたことについての理由を書きます。たとえば、きちんと相手の話を聞こうとしていることが伝わると思うから、などという理由もよいかもしれません。あなたの考え方に沿って意見を書きましょう。

※以下のポイントを中心に見ます。

第一段落について

① **文章A**と**文章B**それぞれに書かれた、敬語を使う目的

について、それぞれの筆者の考えが書かれているか

② ①の内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか

第二段落について

③ 第一段落をふまえて、どのような立場の人にどのような目的で敬語を使いたいか書かれているか

④ ③の内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか

第三段落について

⑤ 第二段落に書いたことについての理由が書かれているか

⑥ ⑤の内容の過不足、文や語句の表現・文の意味に誤りがないか

全体について

⑦ 段落が問題の指示に従って分けられているか

⑧ 答案用紙の使い方が正しいか

⑨ 誤字・脱字・送り仮名・仮名遣いの誤りがないか

⑩ 字数制限が守られているか